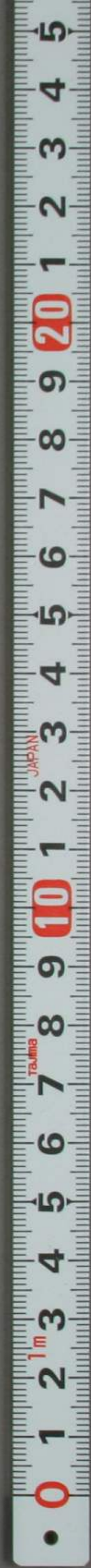




目録

5  
2147



門利5  
號2/47  
卷

待主

通義  
義

藤野潔氏遺愛之記

明治四十一年四月廿四

藤野漸氏

泚諧穉穉  
與應治生  
不遠聲相  
崇寧言妙  
子旌  
相人相

拈花微笑頷蓋目擊

先聖靈機言論不及

白其不及以一言半

句通線路使人入玄門

名之曰下語也唯有言外

知佛者投機也語帶

句易知識耶幻住蒼生

句蛙投井忘却身心

一句以蓋天下若思有

邪亦蓋了个字哉

不<sup>レ</sup>依<sup>ラ</sup>夜<sup>ニ</sup>來<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>争<sup>カ</sup>識<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>  
 秋<sup>キ</sup>矣<sup>キ</sup>蕉<sup>ノ</sup>門<sup>ニ</sup>二<sup>ニ</sup>子<sup>ノ</sup>姓<sup>子</sup>學<sup>ラ</sup>先<sup>ニ</sup>  
 於<sup>レ</sup>太<sup>ニ</sup>道<sup>ニ</sup>作<sup>ニ</sup>為<sup>ス</sup>此<sup>一</sup>卷<sup>ヲ</sup>因<sup>テ</sup>  
 書<sup>ニ</sup>是<sup>言</sup>平<sup>一</sup>卷<sup>ノ</sup>首<sup>ニ</sup>  
 享<sup>和</sup>在<sup>成</sup>集<sup>斯</sup>夢<sup>ノ</sup>



關

右銅印

黃華菴輯  
 夜人撰

卯<sup>ノ</sup>如<sup>ク</sup>花<sup>ノ</sup>乃<sup>レ</sup>経<sup>ル</sup>乃<sup>レ</sup>心<sup>ノ</sup>室<sup>ノ</sup>の<sup>門</sup>  
 去<sup>来</sup>  
 升<sup>六</sup>



花さや枝をほさし水のそら  
梅のえちさうらうらう  
ゆよもあのおらうらうさのさゆり  
さうら月のねほらうらうらう

豊浦攝 洛 芦 涯 舍 六 定 雅

古今不鎖



春のね改り月ねのあをい

カハチ 八千里

さる冬の極よさる新日れ  
ほらさうらうらうらう  
さる木を西とひし七月桂  
うらうらうらうらう  
ゆよもあのおらうらう  
海のねさうらうらう  
さるねらうらうらう  
さる月をさうらうらう

巴龍 昔周 普宥 李郷 友郷 鯉郷 歌三 楚山



月出雲のいづれも居る人々  
 大蔵のいづれも居る人々  
 蓮花のいづれも居る人々  
 麦刈ハ九の末てある柳田子  
 山菜系ハ笠の下より出る  
 よい香りと云く人とも動かし  
 門の二の帯たてく柳の花  
 立出て又是ハ夜ほき柳外  
 月化  
 質明  
 南義  
 五嶺  
 松邦  
 切瑳  
 明  
 完来

廿  
 雄  
 撰

獅子吼



権の本は花よかきとぬすむい  
 器

明皎く白的く  
 作麼生

秋の言中よねをけりしりも  
 升六



木犀のつらゆらとよき持を  
いーらひ啼ハ山のかうき  
土谷よきやまおの夕あし  
ふゆのよきやまおの夕あし  
さるさるぬきいししに音の松  
たのよきやまおの夕あし  
無のよきやまおの夕あし  
踏ぬきいししに音の松

井眉  
夜人  
六眉人  
六眉人  
六眉人

神のよきやまおの夕あし  
ものよきやまおの夕あし  
おのよきやまおの夕あし  
ひし押を おそ月ましのひ  
小屋のよきやまおの夕あし  
すくまきやまおの夕あし  
うしろのよきやまおの夕あし  
まのよきやまおの夕あし

六眉人  
六眉人  
六眉人  
六眉人  
六眉人

何れもほの、静もあつゝさしほ

金洲

ものきささめ、たしきあはれ

子来

わしらのまに、静し静し

升六

春よるはと、静のこほしあ

洲

待よみのほの、せわしきほ乃松

来

静よまらまら、ま眉のたれ

六

まよこころ、まよまをこころ

洲

こ扱よか、こほまのたれ

来

まほろ、まの静をまあつゝ

六

豆腐つゝ、まのたれ

洲

振あはく、静の原乃静

来

遊りほよこ、まのたれ

、

まよも、まの静をまあつゝ

六

おら、まのたれ

洲

何れも、まの静をまあつゝ

来

まゝにねむし一乃月を隈る  
朱かろりのきり葉折れ引か  
くまゝのまゝのけのぼり

六、河



諦觀法王法  
法王法如是

わゝるゝ月の西きりつる  
釣瓶又けりはき田一投  
るゝしと柳ハいつても  
袴をけりねまハつゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
枕きゝゝゝ柱きゝゝゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

時来  
桃士  
升六  
来士  
六士  
来士

六 来  
 六 士  
 六 来  
 六 士  
 六 来  
 六 士  
 六 来  
 六 士  
 六 来

六 士  
 六 来

六 来  
 六 士  
 六 来  
 六 士  
 六 来  
 六 士  
 六 来

人得る西ハす〜〜  
海老のよほ〜  
いつとまゝの君の口〜  
〜  
志如くのむ〜  
人の骨よわ〜  
〜

甫六甫六甫六甫

細〜女〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜

甫六甫六甫六





佛車成ちまのつくるみそを  
 先女もろろをむしりて  
 うらうらなむきかきかきの  
 給出せしむやんか  
 之階の橋のたきかきかき  
 簀の管もまたかきかき  
 下もろろの鼻うらする  
 ぬらぬらの紐乃あむかきかき

六 段 男 六 段 男 六 段 後

金洲撰

方丈



佛車成ちまのつくるみそを  
 うらうらなむきかきかきの  
 給出せしむやんか  
 之階の橋のたきかきかき  
 簀の管もまたかきかき  
 下もろろの鼻うらする  
 ぬらぬらの紐乃あむかきかき  
 乙 由  
 二 柳





志しつらうきんしつる月執  
 友とまじりしころ石う那  
 ちつふまきものまほそより  
 餘レ暖ヲ幾一緡ノ錢

右詩歌俳之三子夜話

漫 洞 馬



主人公

右二題化童門江津篆列

いんまみまはせはる本模  
 はる守まき花のちひま  
 お梅の春まきる月お外  
 飛ぶ城まおるまきるおま  
 系まハ敷うまきまきまきけ  
 ちまきまきまきまきまきま  
 三月月の新まきまきまき  
 口切平宇治の夕山まきま

駝 岳  
 甫 六  
 廿 雄  
 洞 冠  
 自 樂  
 村 三  
 長 齋  
 籬 蜂



美代の春も花もさかぬよき水  
よき水も花もさかぬよき水  
枝ありて水の水は蒼江  
山つて秋風よき水も来  
吹よき水もさかぬよき水

月白風清



右二顆化童門幸哉篆判

蓬<sup>左海</sup>宇  
逸<sup>持ッ</sup>枝  
一<sup>吾摩</sup>来  
玄黄

美代のほろもさかぬよき水  
ハ朝ヤカ〜たるすまひさう  
ま〜さかぬよき水もさかぬよき水  
和柔の花もさかぬよき水  
まの〜さかぬよき水もさかぬよき水  
長空も花もさかぬよき水  
晴<sup>カ</sup>鹿の願もさかぬよき水  
よき水も花もさかぬよき水

洛<sup>カ</sup>瓦全  
甫尺  
其<sup>イカ</sup>成  
若<sup>カガ</sup>公羽  
一<sup>カ</sup>笑  
千<sup>カ</sup>枝  
魏<sup>カレゴ</sup>道

海きくくあきふらち中とまはる  
 あくまへしと笑うさうの牡丹  
 心もや柿赤くかぶる  
 よれ友のうらま入るる記  
 いはるはあまの神もまはる  
 一八や名もいふぬ濃紫  
 美くあうさうはやくのあま  
 心くやあまふさうつく夕小る

其<sup>クハ</sup> 其<sup>クハ</sup> 萌  
 有<sup>フシコ</sup> 篁  
 葵<sup>アキ</sup> 亭  
 青<sup>アキ</sup> 峯  
 蓬<sup>アキ</sup> 壺  
 可<sup>日向</sup> 笛  
 玻<sup>ノト</sup> 井  
 山<sup>ノト</sup> 芷

松 菊 撰

選佛場



幅をささぐり又侍子ありあめ  
 か花川のまはるるは  
 瑞馬  
 丈草  
 大江丸

うれしうすけふのちのすけふ  
 わきれまはやくとてねを  
 秋のむすぶもよほは  
 ちちねまふ人の踏む  
 一まの庵よ  
 花あう月ねふ  
 稲葉乃きり  
 水たさく  
 布石  
 雪涛  
 夜人  
 氷儿  
 魯隱  
 采彦  
 杉光  
 月人

ちのすけふのちのすけふ  
 うれしうすけふのちのすけふ  
 わきれまはやくとてねを  
 秋のむすぶもよほは  
 ちちねまふ人の踏む  
 一まの庵よ  
 花あう月ねふ  
 稲葉乃きり  
 水たさく  
 布石  
 雪涛  
 夜人  
 氷儿  
 魯隱  
 采彦  
 杉光  
 月人

其雨やねいさるるのくへよ  
 是ほらのちなるしはるし  
 とうエまししそち柳いみろく  
 梅後 泊帆 斯萼

止静

右二顆 今江篆判



宇治らにまきのゆくへと  
 まつちのちるる人よほりうまろのみ  
 口やしのふらふえまらる兼らと  
 金洲 我笑 不存

貝るよめちまのぬし 牝の山  
 房よこまきつこものなほ  
 めつ美ふしすまのまらと増半  
 あらまのちまもにまほるるり  
 忘しそめちまらふらうもま  
 丹波路のねよまらあつた  
 福妻や中瀬まところの伊  
 みるよのよちうを満く  
 小田輝 翁雄 馬羊 竹亭 洞霞 右秀 未紀 桂郎





うね花子うらまやきいぬ  
嘆おねよう月ありやねふ

荒陵 木子 虹  
アフリミ 駢道



是日已過  
命亦隨滅  
如少水魚  
斯有何樂

さるのまきいまぬ日と日わく  
十ふよあおねくやねのちろさけ

エツチ 子孫 丑  
乙 峯

やうきいねやねあおいし  
株の月さうけいぬいん寺  
ねの珠一いつるゆるい  
ふねの葉いとぬふ葉むら  
静さきかきき極の日和れ  
うらあすの揮ねあふあき  
勢もまア耕まへんよき  
こりもいぬきものよき

千 明  
栗 堂  
遠江 可 月  
フシヨ 仁 里  
太 室  
イヨ 卷 玉  
サツニ 丹 七  
關 叟

桃士撰

浴室

右三顆

萬兵篆刻



居風呂又楳の河西やねほろ月	蜂又
おきつゝ若あゝいわむむき急越	時来
みその定ゝゝゆゑに救あひ	杣源
月ときまゝ水ようつゝや露のま	

蚤ゆふね半の汐乃いゝりい	宜白
冬川や杭をせゝゝゝ水のま	吾萍
夕月やいつゝあけも楳のま	泉車
手倦きまをばと小のねをば	松雨
吾ぬのかくまき葉しりあゝの元	戦兢
送りや一寸急あゝゝの夕ゝ	春紫
鳴きお中又居ゝむ呼まはる	石兮
正月ゆをゝゝの涙をあらぬ	魚眼

日月田やまのきりあるきりくは  
ゆく水く二月きり乃きり  
はきりきりぬくまのきり  
かきり人のよきりかきり  
其よ厚きりきりきり

字舟  
桃秀  
青鯉  
尺艾  
月居

洗到無塵垢轉多



右

關之養篆刻

志はねは田藪の啼く志は  
志はねの日月まきり  
夏の本て日月まきり  
まきりまきりまきり  
わしとまきりまきり  
花大根まきりまきり  
起るまきりまきり  
まきりまきりまきり

子来  
桃醉  
鳥穿  
一亭  
亀連  
鯉水  
鯉卜  
八百種

みろくか糸よ藤く深をり  
 能きくれ汝ひとりあつて  
 壬生念佛花よいのぬ敷い  
 甘言糸ききとるあつてあはれ  
 新夢の粒くまゝゆ浮葉多  
 山深く志きあふ入りぬ夕夕  
 か〜花よき〜白ひく〜花の月  
 花と水花の日はさ〜花よき

枇<sup>イカ</sup>栗  
 蕉<sup>アツ</sup>里  
 祐<sup>アツ</sup>昌  
 五<sup>カ</sup>来  
 丈<sup>カ</sup>大  
 紫<sup>カ</sup>晓  
 玉<sup>カ</sup>洋  
 蒼<sup>カ</sup>虬



清淨

右 今江集列

花と水花の日はさ〜花よき  
 山深く志きあふ入りぬ夕夕  
 か〜花よき〜白ひく〜花の月  
 花と水花の日はさ〜花よき  
 甘言糸ききとるあつてあはれ  
 壬生念佛花よいのぬ敷い  
 能きくれ汝ひとりあつて  
 みろくか糸よ藤く深をり

羅<sup>カ</sup>城  
 竹<sup>カ</sup>百  
 路<sup>カ</sup>人  
 伯<sup>カ</sup>先  
 蕉<sup>カ</sup>雨  
 鹿<sup>カ</sup>古

ちり梅其のく乃るの糸小  
 箕や塘くまると木の家  
 空を指して吹すまゝなる木葉  
 白牡丹見ると肥まゝくく歌  
 牡丹のすゝりけしる木葉小  
 屋まゝくと吹すまゝの家  
 ターとやうくまゝの味子  
 桐の実乃まゝくまゝとまゝ  
 春<sup>ユ</sup>蟻  
 午心  
 巢<sup>イ</sup>兆  
 秋<sup>イ</sup>屋  
 武<sup>ク</sup>陵  
 桃<sup>サ</sup>葉  
 萬<sup>ナ</sup>井  
 猶<sup>日</sup>向  
 綯

時来撰

且過寮

右 關之養篆刺



痛る思ふ門掃くまのを合ら  
 え日とあやなきもの頼ひ  
 梅の月たぎつて居てもよき  
 甘<sup>ユ</sup>角  
 成<sup>ユ</sup>美  
 長翠

ゆくゆくかきし初るる庭より  
廿廿嘆くおく庭もなき秋  
秋のおやひもよまきて松の風  
ちまほれ又おのほむをね乃ほ  
即ち口よりえきさす寸秋の暮  
船をせや只々嘆しかまら  
えりの際をさわく芦を  
ゆらゆらとらうらうらと

三千彦  
恭昌  
一茶  
祇徳  
葛三  
恒丸  
嵐外  
可都里

一宿帰

右

今江篆判



我としもききさきく秋  
いろくわもるう飛さう原の  
うらうらやあきぬ花乃秋  
うすやうあきさきあき  
うらうらの秋よあきる  
其のお乃おるうらうら

士朗  
少汝  
松兄  
川央  
岳輅  
卓池

夕や雲のうらみくさくさの月  
 秋のねろねろのうらみくさくさの月  
 いづれぬねのきりぎりすや桐右桐  
 二枚の戸や夕のうらみくさくさの月  
 昔出て居るぬねのきりぎりす  
 啞のうらみくさくさの月  
 其のうらみくさくさの月  
 二月の月をたのむるうらみくさくさの月

素磔 シナ  
 雲帯  
 柗莊  
 斗入 カ  
 梅選 ユキ  
 白年 ユキ  
 暮丸  
 吳山



茅鞋竹杖

右 關之養篆刻

重厚 アハ  
 玉屑 タマ  
 樗堂 イコ  
 布舟 フネ  
 石蘭 ヒコ  
 枕

重厚  
 玉屑  
 樗堂  
 布舟  
 石蘭

えらう家のうきさゆ波の月  
さきの船乃らぬ道居りしと  
月まらくちなきつらぬおの松  
月の出ようゆるもろ枯う柳  
吹ちら我こころの既ゆい  
まこもろや柳すしきおろり  
は骨やむらうけい皆動く  
子よおやちらむらうけい

翠實 タニハ  
萬和 ヤマト  
喜齊 サカヒ  
桐栖 兵庫  
雪哉 イタミ  
毛龜 イケガ  
稻丸  
瓜坊

遠きぬくおおふやまよ  
志しきつみかきぬあやめ  
散花二月強ゆく見ゆる人  
雀ふもあささむむあ乃もの

素艶 ソフミ  
固能 タニハ  
大燕 イナハ  
五明 テハ

故水を生くうらぬと又  
まらら乃先ねえらけの流

子丑  
白年



峰さゆる水ハ函又鶴啼々々  
はつきもきき十月廿月  
菰ちつゝ人又焚火の白くむ  
菰のはよ車うさうれ  
はしとこまのりるの清く  
飯の志ろきままおしき  
うま花の涙依乃入江のほ子  
うされ男をさうけううされ

暮九  
丑九年 丑九年 丑九年

六九

あしおの夕とまてよいひ  
公廉子うさくさうさへ七  
柳系よさきて小き路村  
を合申るのねをさうさ  
巾着乃葉さけら小むる雨  
とらいろさうさうさ  
けけの満よつげ町の月  
新うほねりやうさ

九年 丑九年 丑九年

大塊假我以俳諧

右

今江篆判



集さめぬる日を解夏乃

秋のまらちらりやせ六士一建よ

會して重谷カ遊ひを

うらす

と秋はうららうらあるあ月也

升六

あまのあはるさよわ戸

サ雄

細はこのほろつき命よおのり

松菊

ふきのやうせしよさるる山あら

梶士

あまのあはるさよわ戸

金沙

櫓を削る孫よゆふ月

夜人

二三十祝ひ日ほりき特の兒

時来

さどりの起向皆をんまへ

執筆

夫臨古帖。如遇異人。不  
 必相其耳目。足頭面。  
 當觀其與中心笑語精  
 神。流雨露。安臨古印。亦  
 然。只可取其神韻。于  
 非烟非雨。務之間耳。是

草書の古の帖の水乃きり  
 二日月は角ふりうは極年  
 明やうさおを誇くんも川  
 三つおを遠入りのしん故  
 五月ふりうは極年  
 松風は出たてのしん

夜人  
 廿雄  
 金洲  
 松菊  
 桃士  
 時来

刻印之語。而雖禪機  
非潛亦無他焉。要只  
可取其頓悟。雅致于  
冰煙。冰雨霧之間耳。  
享和成之夏。 生生瑞馬



菊  
菊  
菊  
菊

蕉門俳諧書林

京三條通寺町西五入九

菊舍太兵衛

